



百聞は一見にしかず

■商工会青年部

◀青年部一行

# 台湾報告記

この度、商工会青年部員（総勢十八名）は、念願の海外研修を実施しました。

三泊四日の日程で、台北市周辺を中心に、研修目的を次の四点到に絞り視察しました。

- ① 日本から進出した企業の実態と問題点について
  - ② 各種の商業施設や商業の現況について
  - ③ 台湾との貿易について
  - ④ 各自の事業について、商売上のヒントを得ること
- その研修結果の概略・感想についてご報告します。

## 若いパワーが活躍の台湾経済

まず、日本からの進出企業の訪問については、事前交渉により東京の一部上場企業であるNOK(株)の合併企業が我々を受け入れてくれました。

「全興油封企業股份有限公司」  
 資本金 六億三千万円  
 従業員 二〇〇名  
 設立 一九七四年八月  
 出資比率 台湾 五七%  
 日本 四三%

ここで我々は、日本人社長や製造部長の苦勞話やエピソード

ドを色々と聞く事ができました。

例えば、台湾人は独立心が非常に強く仕事を覚えた頃には会社を辞めてしまうので従業員の定着性が無い（その結果台湾では中小企業が非常に多い）とか、作業に工夫や協力や合理化という意識が薄い、自分が顔を知らない人には会社の大事な客人であっても挨拶をしない、自己中心的で自分のミスを認めようとしない、自分の手を一旦離れてしまえば商品の瑕疵は先方の責任としてしまう等の国民性や、一方で「ケガと弁当は自分持ち」

（工場でケガをしても自分の不注意として済ませてしまう）

賃金は基本給が安い（日本の二分の一以下）し年功賃金の観念がないので福利厚生面が楽、原材料が安い、手作業をいやがらないので設備投資が安い、紅包（ホンパオ）といわれるソデの下が結構通用するので色々便利（税金まで安くあがるという）などの日本では予想のつかない事実でした。

また、貿易および商業研修では、青年部の事前研修で講師としてお招きしたことのある中華民國対外貿易発展協会



の専門委員の楊さんが、色々便宜を図って下さいました。まず世界貿易センタービルでは、部員とビル内の商社との相談で通訳として活躍、台湾製の設備や商品カタログの見積りを交渉して戴き部員が随分助かりました。また台北市内のA/Cランクまでの商店街の視察にもエネルギーに案内と通訳をして下さり部員一同感謝するばかりでした。また、台湾No.1の卸売百貨店「高峰百貨批發有限